

専門職の自己覚知 その1

～価値観を大切にしたACPのために～

特定非営利活動法人 エナガの会

副代表理事 木村和弘

神戸学院大学・甲南女子大学 非常勤講師

1. はじめに ～今、自己覚知が重要になっている～

- ・自己覚知は援助を助ける ～体験談～
- ・多死社会においては価値観に根差した援助が重要となる～ACPにも自己覚知が必要～
- ・AI時代、人のもつ感覚がより重要となる



2. あなたなら、どうしますか？

- ・92歳、アルツハイマー型認知症（発症10年）、要介護5 C2、IV、食事摂取量が困難に・・・

3. 自己覚知とは何か？

- ・背景、定義 ～主に社会福祉分野、ケースワークにおいて発展～
- ・「自己覚知における5つの視点」、「自己覚知の内容レベル」
- ・「様々な自己覚知の定義」、「自己覚知の定義の構造化」
- ・社会福祉分野が主であったが、今後、医療においても自己覚知は重要となる・・・



4. 自己覚知が不足すると、何がおきるのか？

- ・二つの出来事から考える

5. あなたは、どう感じますか？

- ・ある援助場面における援助者の思考と行動

6. 自己覚知の方法

- ・自己覚知を深める3つの方法



7. まとめ

- ・「その2」にむけて ・「もしバナゲーム」

木村和弘。社会福祉士、介護支援専門員、社会リハビリテーション学修士。研究テーマは「多職種連携
介護老人保健施設の支援相談員で18年勤務。**ターミナルケア**における**家族支援**など多数行ってきた。
現在は、大学・専門学校にて社会福祉士、保育士、看護師の養成に関わりながら、**地域**の多職種連携促進の
活動を実施。演劇を通じ市民に医療・介護サービスを分かりやすく伝える活動を行っている（脚本を執筆）
日創研出版「達人ケアマネ」、「介護人財」で執筆中。こだわりは、**相談援助面接**、アセスメント、ネットワ
ーク構築、**自己覚知**。特技「**占い自己覚知**」。社会福祉援助職の成長と発展を目指している。

E-mail : arigatou0838@yahoo.co.jp